

平成 30 年度 第 2 回学校評議委員会及び学校関係者評価委員会 記録

1 日 時 平成 31 年 2 月 7 日 (木) 午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで

2 場 所 静岡県立静岡視覚特別支援学校 会議室

3 目 的 本校の学校経営における、今年度の目標に対する自己評価結果等を提示し、学校評議員及び P T A 代表からの助言や意見聴取を行うことで、来年度の目標や教育計画立案等の際の一助とする。

4 参加者

学校評議員 視覚障害者支援関連施設 職員、大学教授、地区自治会 会長、
就労継続支援施設 管理者、交流校 P T A 役員
本校職員 校長 教頭 事務長 各部主事 教務主任
P T A 代表 P T A 会長

5 内 容

(1) 学校評価等の結果報告(校長、部主事)

- ・今年度の重点目標における教職員の学校評価
- ・保護者アンケート
- ・高等部生徒アンケート

(2) 意見、感想等の聴取及び質疑応答

※ 評：学校評議員 学：学校職員 P：P T A

評：働き方改革の点では？

学：教員の余裕がないのが現状である。教員の空き時間が十分確保できていない。

評：70 代位の方の地域の活用を考えていったらどうか。小中一貫の児童生徒会の構築を考えてもいいのでは…。

学：常葉大学のボランティア等、授業に入ってもらう他、図書室の整備もやっていただいている。

学：現在、和太鼓指導・自然観察指導・読み聞かせ・歩行指導で外部の人材を活用している。

学：来年度は、ノ一会議デーを作って教材準備等の時間を確保していきたい。

評：西豊田小では、静岡まつりの案内を全校あてに配布したが、参加状況はいかだったか？

学：参加者の年齢の調査まではしていないが、参加者は増えている。

パンフレットを全校に配布していただき、ありがたい。点字や白杖等の体験を実施しているので、児童に参加してもらえるとありがたい。

P：西豊田小の音楽の授業に入れてもらい、あたたかい雰囲気でありがたかった。軍神社の祭りに行ったとき、西豊田小の友達に声をかけてもらってうれしかった。
保護者アンケートの就労についての情報、見学先の情報などを教えてもらいたい。

学：どんな情報がほしいのか教えてください、情報は提供していきたい。

学：卒業生がどんな進路をとっているのか、どんな生活をしているのかお知らせできるとよい。交流で大きな集団の中でこういう時にこういうふうにするんだということが子どもたちが分かってよかった。

評：「交流で何したの？」と聞くと「普通に遊んでいた。」との答え。何をやっているのか疑問だった。

学：普通に遊べることがありがたい。普通に一緒にいる、普通に接することが大切。

評：一般の人で花や植木の世話をしていることがあるが、やったらどうか。

マンション工事の時に、下校の方が車にひかれそうなことがあった。大きな声で騒いで無事だった。

学：橋の下の横断歩道は暗くて進行方向が見えにくくて危ない。エスコートゾーンをつけてくれるように頼んでいる。町内の方が見ていてくださりありがたい。

評：中学部から浜松視覚に進学するのがふつうであったことからいろいろなニーズが出てきたということでしょうか。育成会という組織に顔を出すと情報を集められる。

評：学校北門付近の音響信号。9時で音響をとめてしまう。エスコートゾーンもない。大変怖い思いをしたことがある。人が出歩く時間は止めないでほしい。視覚障害者が自立して一人で外出するための環境整備、インフラがついてこないと外に出られない。視覚障害者のためのA型、B型事業所が少ない。親御さんは心配。知的障害など他の障害の方が主にB型事業所に行くことになるが、見えないことでの作業所内での急な変化に対応できないと怖い。その事業所内で障害のことがしっかりと分かっている人がいるとよい。受け入れるにあたっての研修、対応の仕方について対話したり連絡しあったりすることが必要である。支援センターは、対応できることがあるので相談してほしい。

点字図書館については、支援センターに変わって数年たつが反応がうすい。もっと利用してくれたらと思う。子どもの時には、あまり使わないというのではなく土曜日もイベントがあるので来てほしい。ぜひ、イベントを知って利用してほしい。保護者だけでなく先生方にも来てほしい。

高等部のマッサージや啓発については、外に出ていくしかない。外で名を売る、PRするのはいい。福祉まつりに参加するなど、名前を売っているいろいろな人とのつながりを作ること。そこから情報をもらえる。

学：首都圏では、音響信号の音の問題はないのか。

評：ガイド音は、大きな音にしない。3m位の位置にこないと聞こえない。音は、デリケートな問題。

学：支援センターの活用については、高等部だけでなく小さいころからの活用を考えていきたい。

評：現在、施設は知的、精神、肢体の方が利用している。新しい方を受け入れるのはチャレンジでもある。視覚障害の方を受け入れることができるかわからないが勉強していきたい。

学：本日の貴重な意見を基に、今後の学校経営にいかしていきたい。